

安城市への I ターンに関するアンケート調査結果

目次

1	調査概要	3
2	回答者の属性	4
3	調査結果	8
	（1）現在居住する都道府県からの転居について	8
	（2）安城市の認知度と魅力について	13

1 調査概要

本調査は、将来、居住地を変える意向を持つ人がどの程度いるかを把握するとともに、安城市への転入を促すための市の魅力・ウリを把握することを目的とした調査を行うものです。

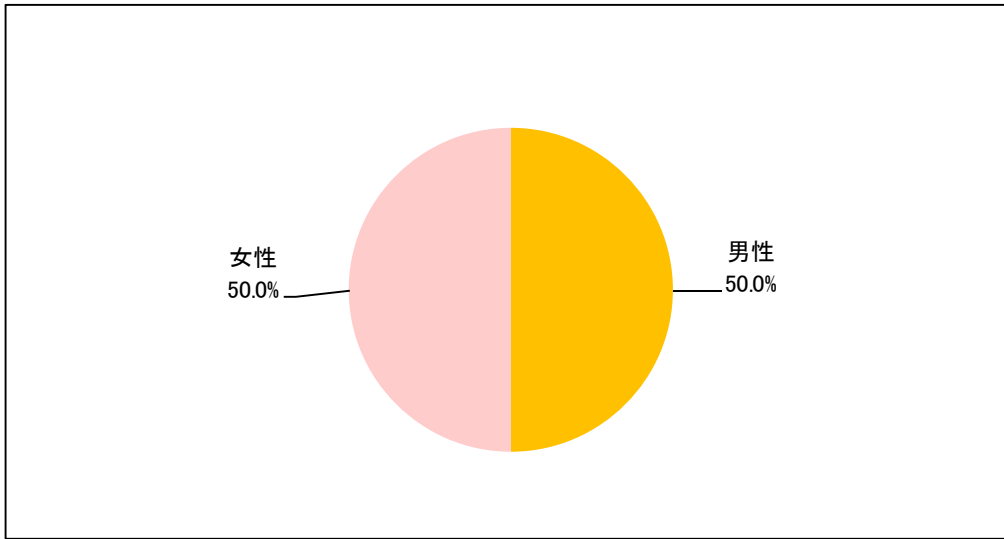
調査の概要は下表のとおり。

アンケート調査の概要

調査対象	<p>将来の安城市への転入する可能性のある人として、以下の4つのタイプが仮説として想定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>タイプ1：名古屋市で働く人が居住地として安城市を選定 <input type="checkbox"/>タイプ2：自動車関連産業で働くために安城市を選定 <input type="checkbox"/>タイプ3：新規就農希望者が移住先として安城市を選定 <input type="checkbox"/>タイプ4：二地域居住（ゆとりある暮らし）の拠点として安城市を選定 <p>安城市への転入については、大都市圏からの移住の他、北海道や九州などの地方からの移住、近隣地域からの移住等も想定される。本調査では上記4タイプすべてによる転入が想定される大都市圏に絞り込み、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、18歳以上常住者を対象として実施する。</p>
調査方法	<p>ネットリサーチ</p> <p>※ 会員制ネットリサーチ企業の最大手の一つである株式会社マクロミルを利用</p>
抽出方法	<p>会員制ネットリサーチ企業の登録者のうち対象となる人を無作為抽出して調査へ依頼を行い、有効回答数が500サンプル回収するまで実施する。</p>
調査期間	<p>2015年8月24日～8月25日</p>
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>現在居住する都道府県からの転居について <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の転出意向 ・ 転出を考える理由と希望する転出先 <input type="checkbox"/>安城市の認知度と魅力について <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛知県内各市・地域の認知度 ・ 安城市で知っていること ・ 安城市の資源のうち魅力的に思うもの ・ 居住地としての安城市の魅力
回答者数	<p>516サンプル</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設問文末の記号について、「SA」は単回答、「MA」は複数回答、「NA」は数値記述、「FA」は自由記述となる。 ・ グラフ下の「n=〇」は該当する回答数を示す。 ・ 回答の集計は、選択肢の回答数を総回答数で除したものを%表記しているが、小数第2位を四捨五入しているため、各回答の合計が100%とならない場合がある。

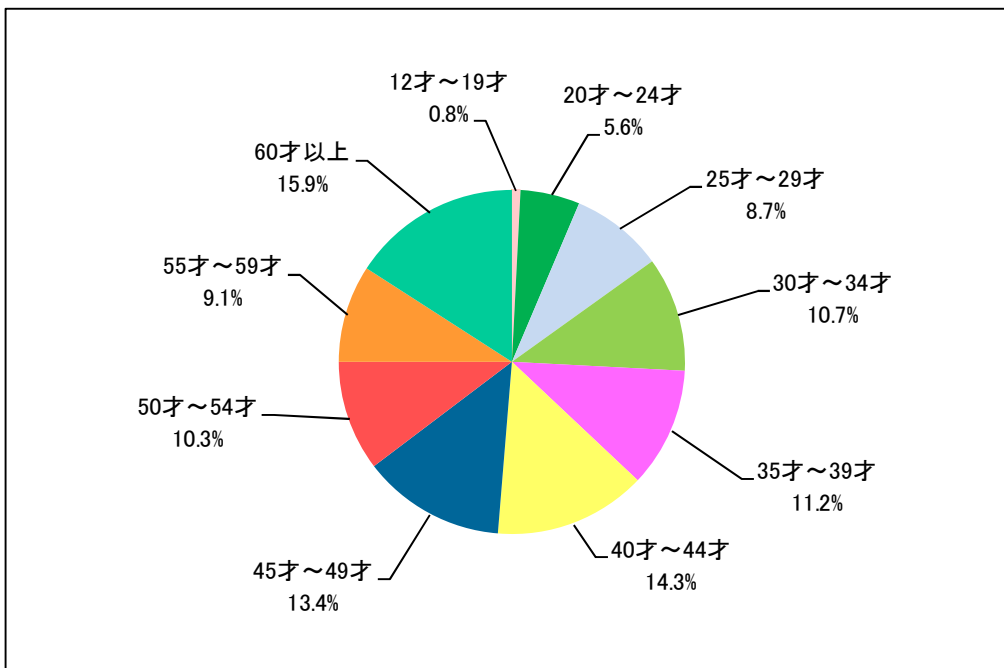
2 回答者の属性

①性別



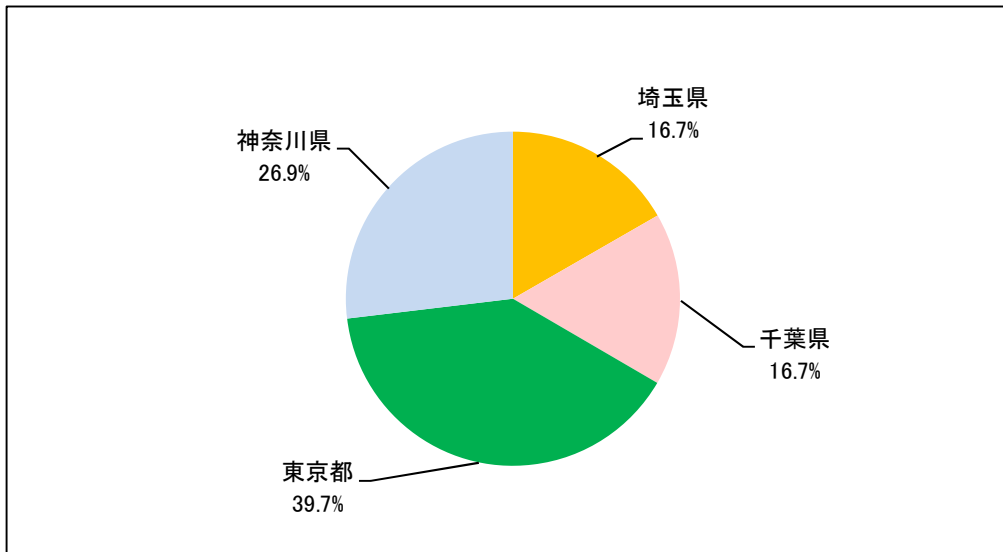
(n=516)

②年齢



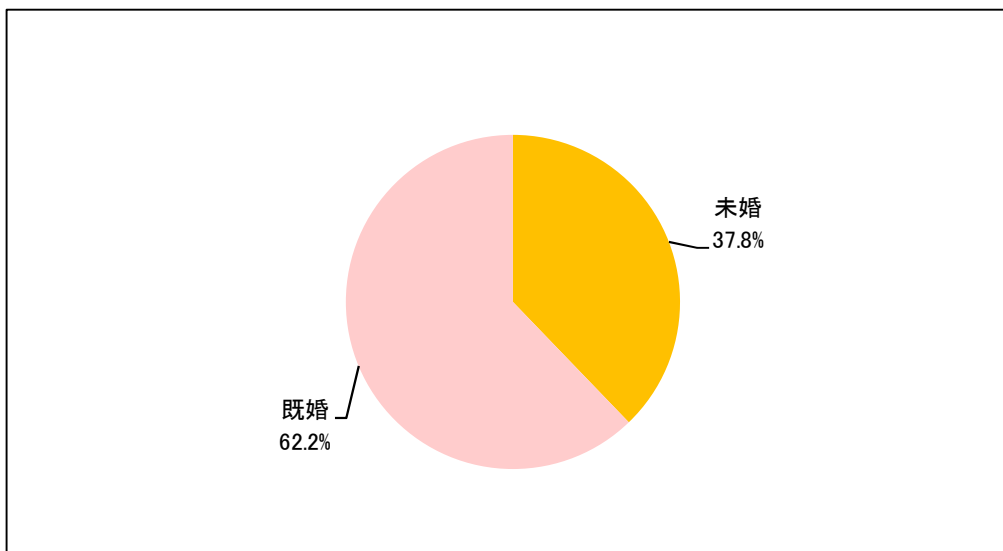
(n=516)

③居住地のある都道府県



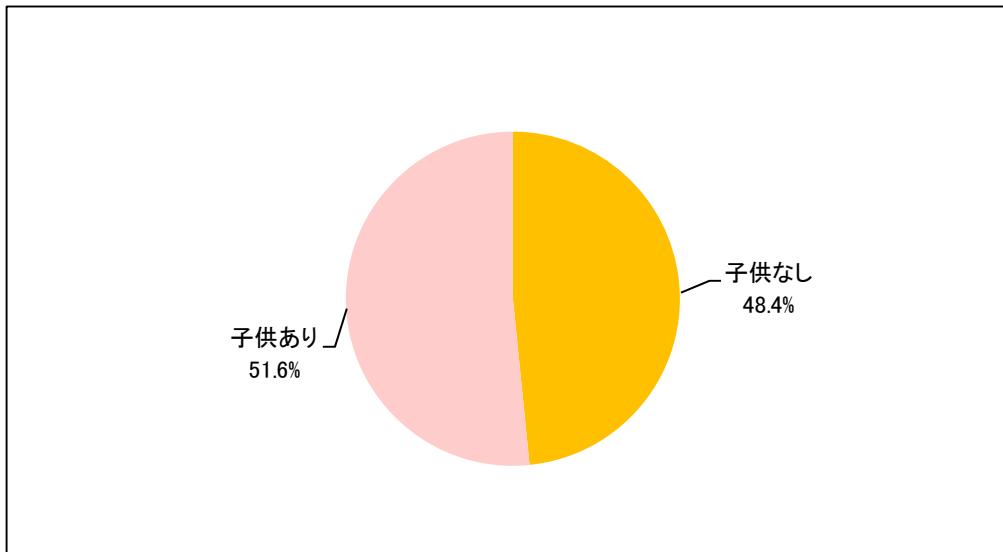
(n=516)

④結婚の有無



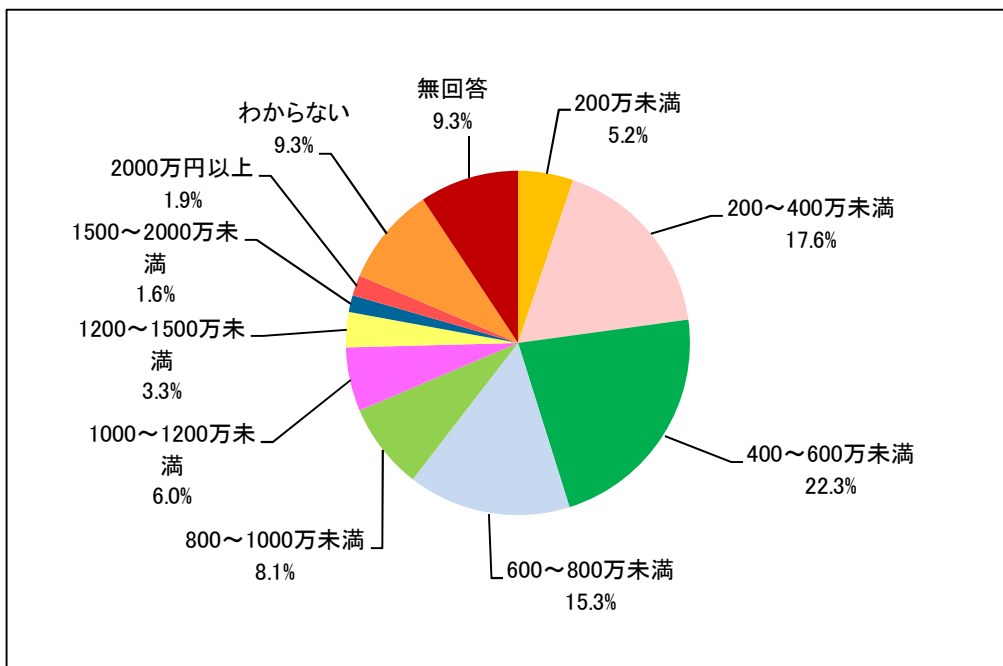
(n=516)

⑤子供の有無



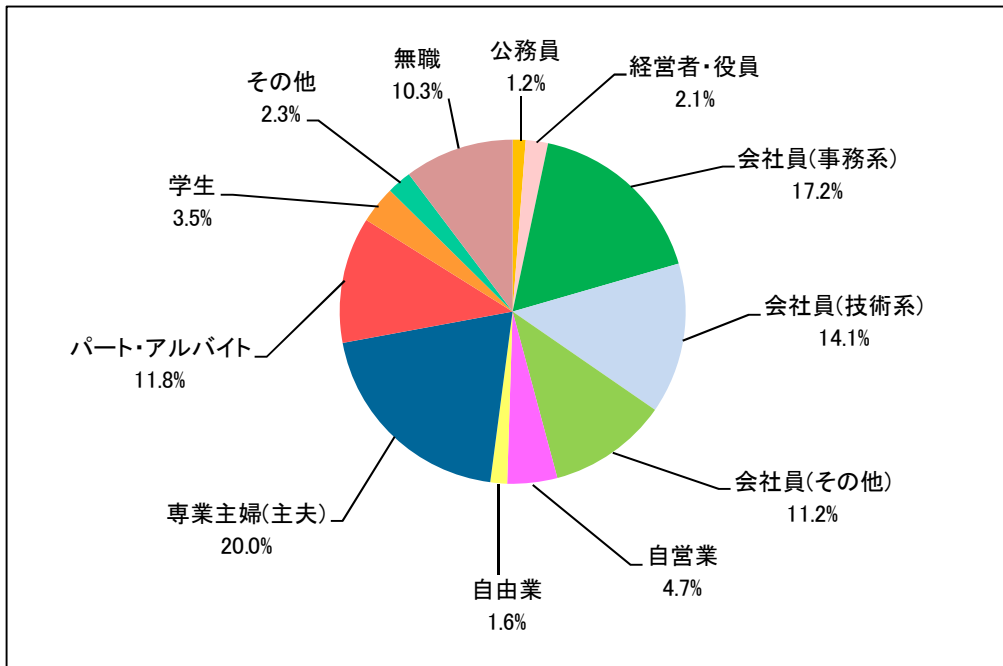
(n=516)

⑥世帯年収



(n=516)

⑦職業



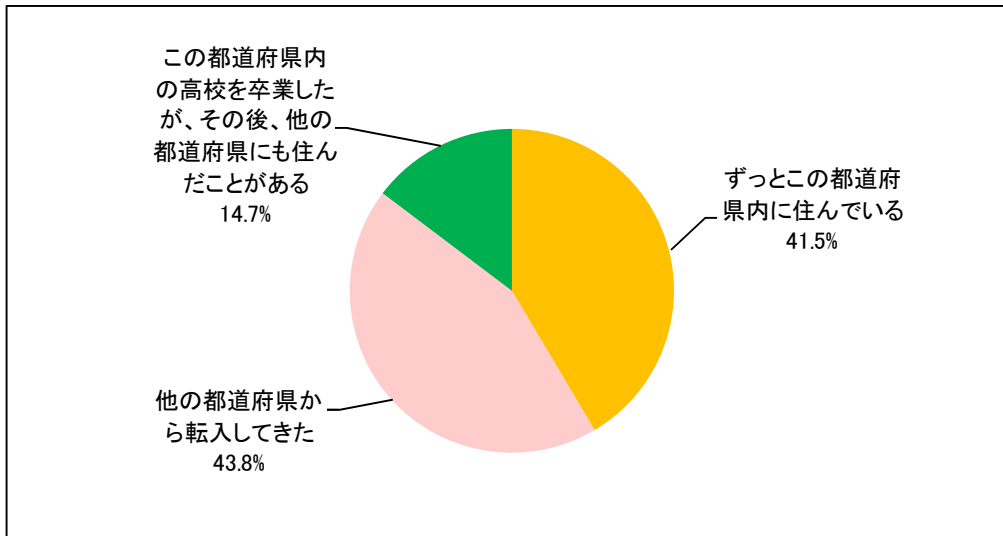
(n=516)

3 調査結果

(1) 現在居住する都道府県からの転居について

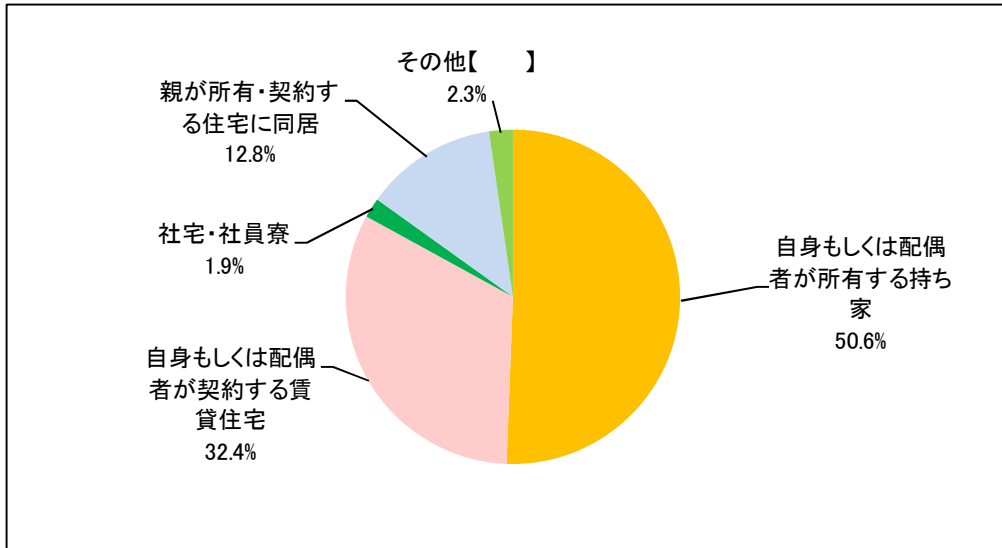
問1	あなたの高校卒業以降の居住地について（SA） ＜高校を卒業していない人は、18歳時点を基準として回答＞
----	--

「他の都道府県から転入してきた」が 43.8%で最も多いものの、「ずっとこの都道府県内に住んでいる」も 41.5%あり、拮抗しています。



問2 あなたの現在の住まいについて (SA)

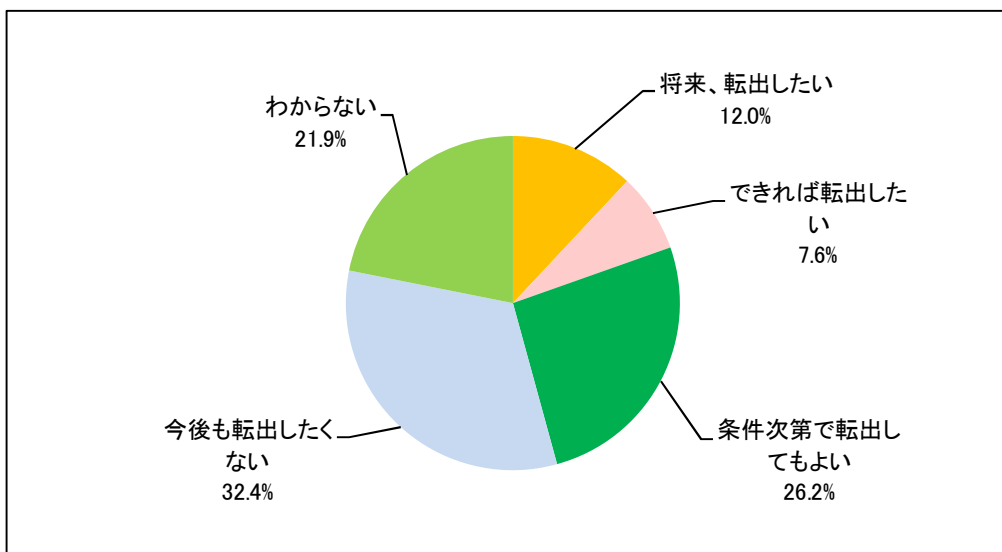
「自身もしくは配偶者が所有する持ち家」が 50.6%で約半数を占めています。一方、「自身もしくは配偶者が契約する賃貸住宅」が約 1/3 となる 32.4%であるのをはじめ、半数近くが持ち家を取得していないことになります。



(n=516)

問3 現在、住んでいる都道府県から転出することについて (SA)

「今後も転出したくない」が 32.4%で最も多くなりました。一方、「条件次第で転出してもよい」が 26.2%であることをはじめ、「将来、転出したい (12.0%)」と「できれば転出したい (7.6%)」を合わせると 45.8%となり、半数近くが転出を考えています。



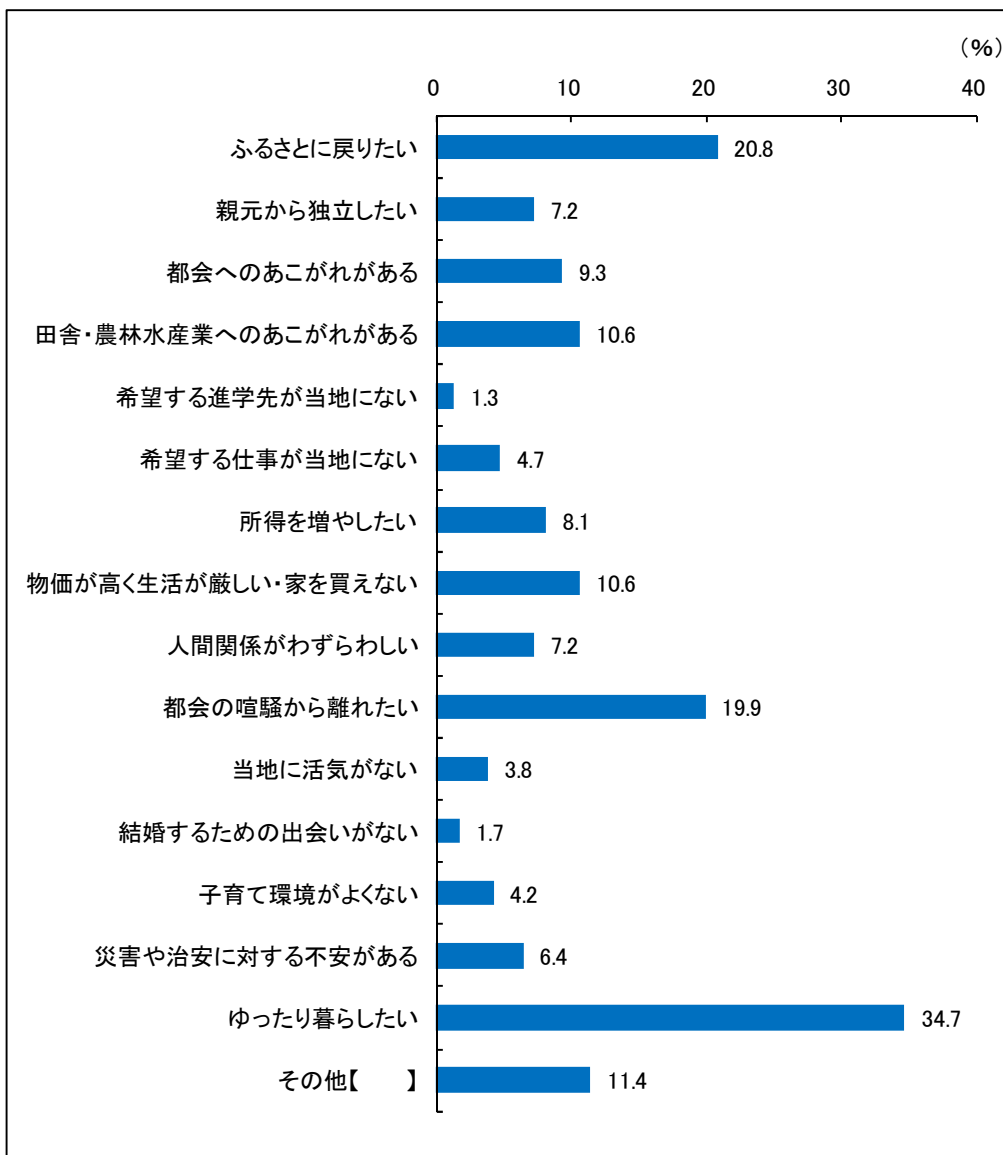
(n=516)

※ 問3で「将来、転出したい」、「できれば転出したい」「条件次第で転出してもよい」を選択した人のみ

問4	転出を考える理由について（MA:当てはまるものを全て選択）
----	-------------------------------

「ふるさとに戻りたい」が20.8%で約2割あり、UJターンが最大の理由となっています。また、「都会の喧騒から離れたたい（19.9%）」についても約2割となり、首都圏在住者に大都市から離れたたいという意向があることも確認できます。

この他、「田舎・農林水産業へのあこがれがある（10.6%）」や「物価が高く生活が厳しい・家を買えない（10.6%）」についても1割以上の回答がありました。



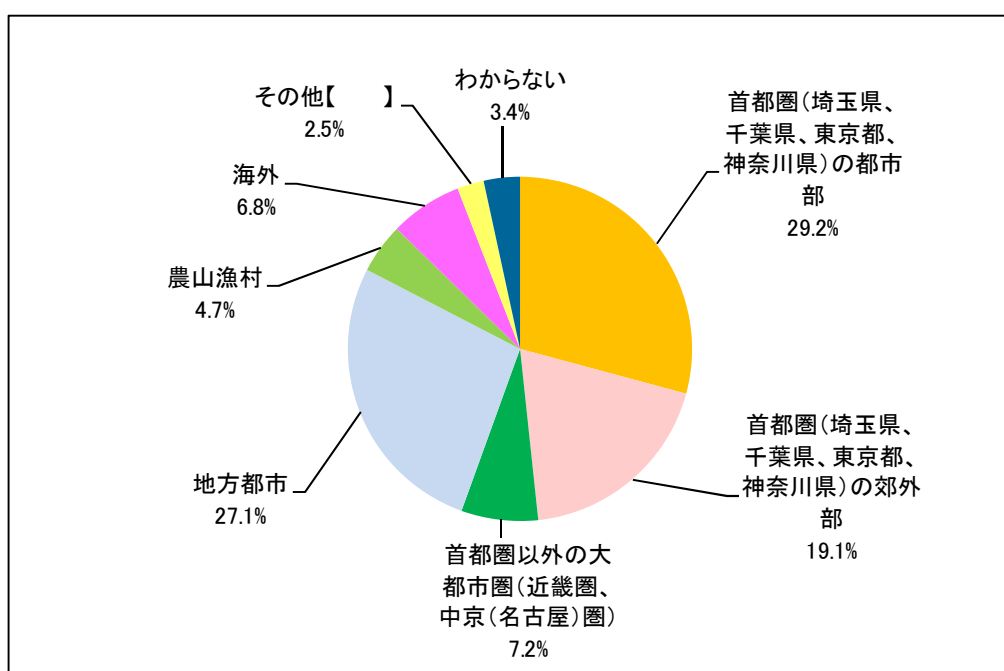
(n=236)

※ 問3で「将来、転出したい」、「できれば転出したい」「条件次第で転出してもよい」を選択した人のみ

問5	転出する場合、どのような地域に住みたいか (SA)
----	---------------------------

「首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の都市部」が29.2%で約3割あり、転居する場合も大都市居住に対する意向が最も多くなっています。また、「首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の郊外部（19.1%）」が約2割で、半数近くが引き続き首都圏での暮らしを希望しています。

一方、「地方都市」は27.1%あることをはじめ、首都圏以外の国内を希望する割合も約4割あります。



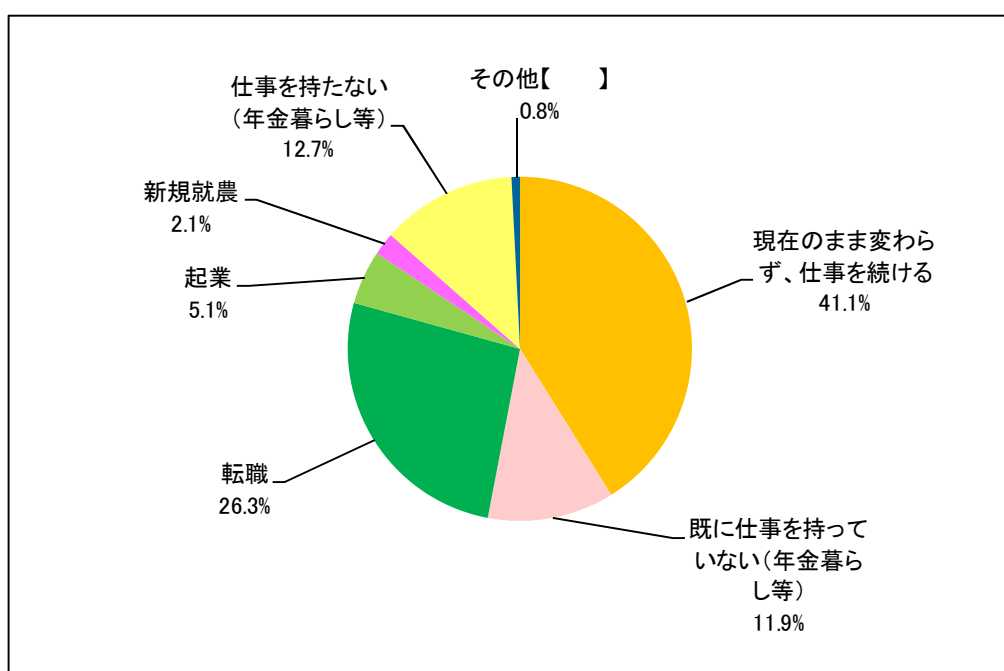
(n=236)

※ 問3で「将来、転出したい」、「できれば転出したい」「条件次第で転出してもよい」を選択した人のみ

問6	転出する場合、家計を支える人の仕事はどのように考えるか（SA） <複数考えている人は可能性の高いものを選択>
----	---

「現在のまま変わらず、仕事を続ける」が41.4%で最も多く、約4割が転職意向を持っていません。一方、「転職」は26.3%あり、「起業（5.1%）」や「新規就農（2.1%）」を合わせると33.5%となり、約1/3の人が今の仕事を辞めて転居する意向を持っていることがわかります。

また、「既に仕事を持っていない（年金暮らし等）（11.9%）」や「仕事を持たない（年金暮らし等）（12.7%）」を合わせると、定年後の転居以降のある人が2割以上となっています。



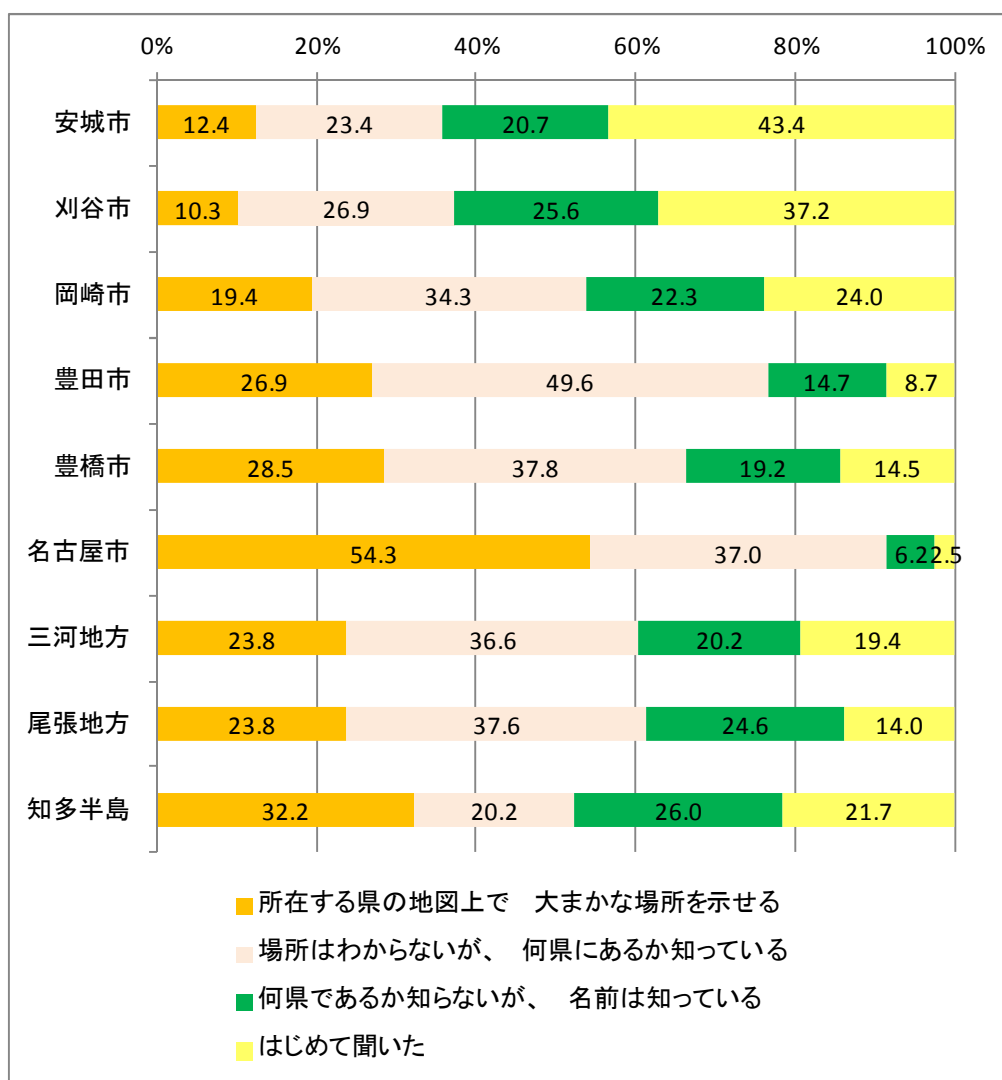
(n=236)

(2) 安城市の認知度と魅力について

問7	市や地方についての認知状況 (SA)
----	--------------------

「安城市」について、「はじめて聞いた」が43.4%で最も多く、4割以上の人が安城市を知らない結果となりました。また、「所在する県の地図上で 大まかな場所を示せる」は12.4%にとどまっています。

県内の主要都市や近隣都市と比較すると、「はじめて聞いた」割合は、「名古屋市(2.5%)」、「豊田市(8.7%)」、「豊橋市(14.5%)」、「岡崎市(24.0%)」、「刈谷市(37.2%)」と比較して少なく、安城市が最も認知されていないことがわかります。



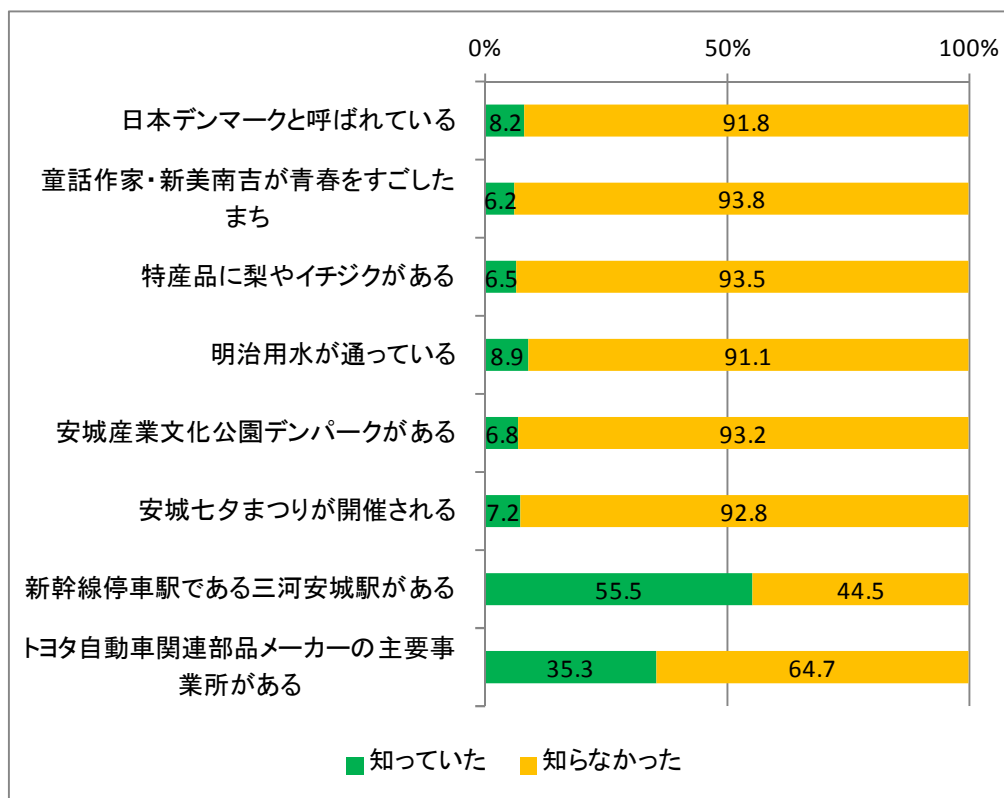
(n=516)

※ 問7で「安城市」について、「はじめて聞いた」以外を選択した人のみ

問8	安城市について知っているもの、知らないもの（SA）
----	---------------------------

「新幹線停車駅である三河安城駅がある」が55.5%となり、半数以上が新幹線の駅で安城市を認知しています。また、「トヨタ自動車関連部品メーカーの主要事業所がある（35.3%）」も約1/3が認知しています。

しかし、これら2つ以外で、1割以上に認知されている項目はなく、安城市に対するイメージがほとんど形成されていないことがうかがえます。

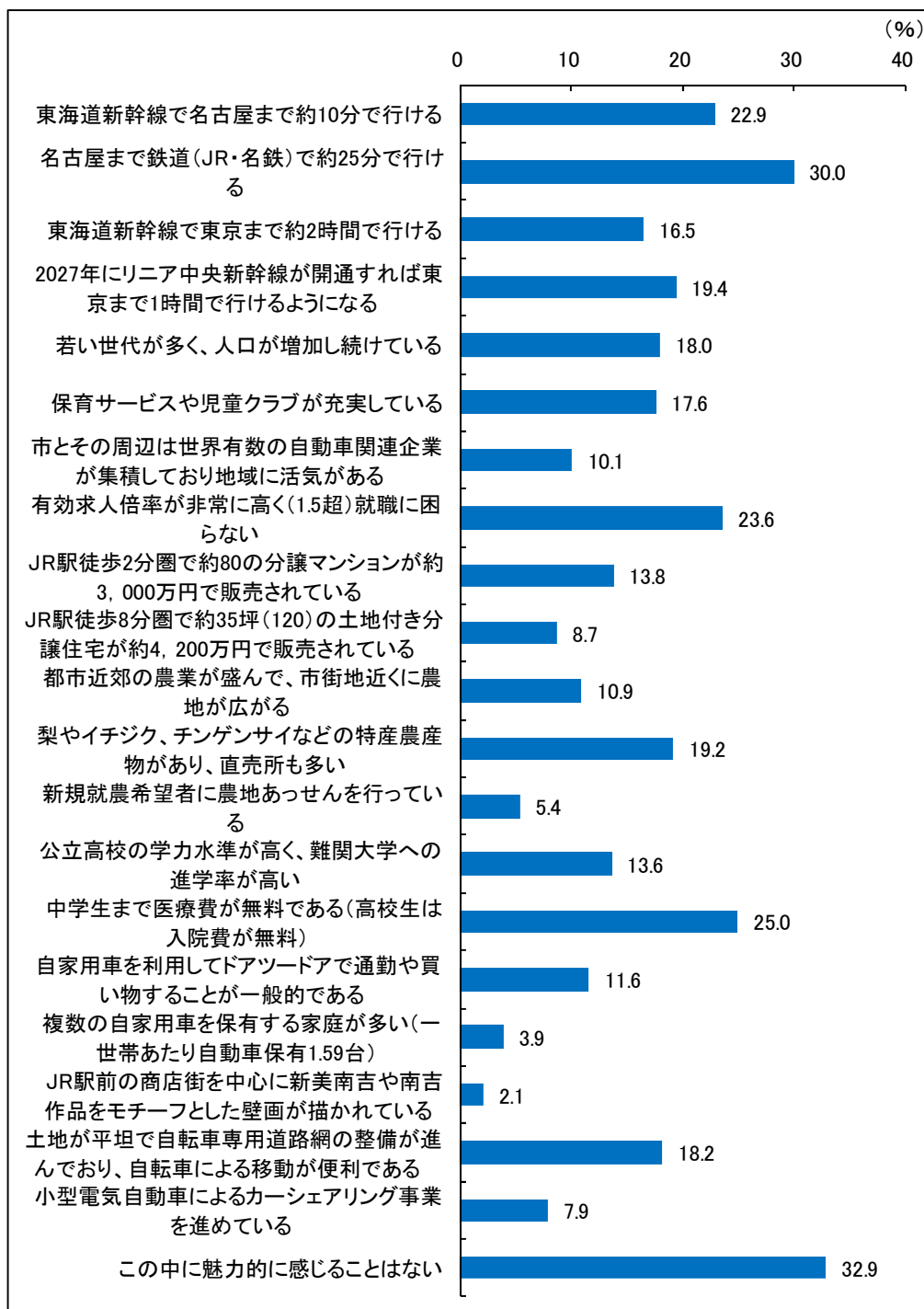


(n=292)

問9 安城市の特徴のうち、魅力的に感じること（MA：当てはまるものを全て選択）

「名古屋まで鉄道（JR・名鉄）で約25分で行ける」が30.0%で最も多く、「東海道新幹線で名古屋まで約10分で行ける（22.9%）」も約2割あり、名古屋へのアクセス利便性が高く評価されています。

この他、「中学生まで医療費が無料である（高校生は入院費が無料）（25.0%）」、「有効求人倍率が非常に高く（1.5超）就職に困らない（23.6%）」、「2027年にリニア中央新幹線が開通すれば東京まで1時間で行けるようになる（19.4%）」など、評価が分かれています。



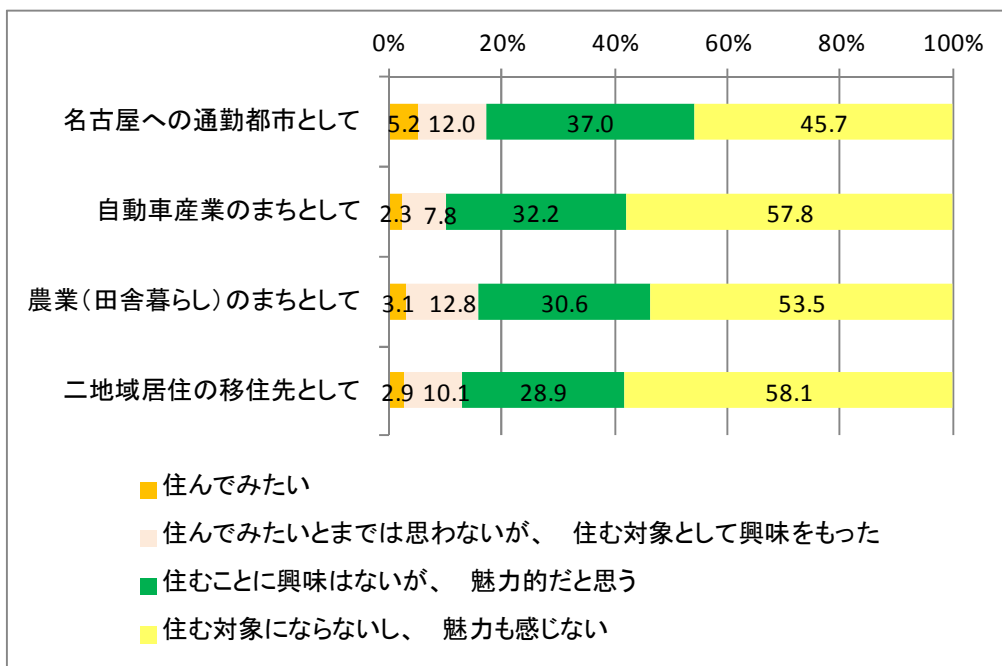
(n=516)

問10

これまでの情報をもとに安城市をどのように感じるか (SA)

いずれの項目でも「住んでみたい」と感じる人は1割を下回りますが、「住んでみたいとまでは思わないが、住む対象として興味をもった」を合わせると、「名古屋への通勤都市として」が17.2%で最も多くなり、首都圏在住者から見れば、ベッドタウンとして安城市を評価していることがうかがえます。

次いで、「農業(田舎暮らし)のまちとして」が、15.9%となり、農業都市として評価されていることもわかります。この他、「自動車産業のまちとして(10.1%)」、「二地域居住の移住先として(13.0%)」についても1割を超えており、安城市の評価は分散傾向にあり、様々な可能性を持っていると考えられます。



(n=516)